

岩国医療圏地域医療構想調整会議（平成30年度第1回） 議事概要

【日時】平成30年7月26日（木）14:30～15:30

【場所】岩国総合庁舎1階 入札室

【出席者】出席者名簿のとおり

- 第1回病床機能検討部会協議結果の報告を行った
- 調整会議の取組促進に向けた県の対応や、平成30年度からの病床機能報告の取扱い等について説明し、了承された
- 公的医療機関等について、地域医療構想の達成に向けた対応方針を協議し、各医療機関の対応方針を決定した

【議事内容】

1 平成30年度第1回病床機能検討部会の協議結果について

事務局から資料1により、公的医療機関等2025プランの具体的対応方針が該当医療機関からの説明どおり病床機能検討部会において了承されたことなど議事概要の報告を行った。

（主な意見・質問等）

岩国市医療センター医師会病院の公的医療機関等2025プランについては、プラン策定後の病床数の変更を踏まえた見直しを行う必要がある。

2 調整会議の取組促進に係る対応について

県医療政策課から、国の通知を踏まえた地域医療構想調整会議における対応について説明を行った。

（主な意見・質問等）

特に意見・質問等はなし

3 平成29年度病床機能報告の結果等について

県医療政策課から、平成29年度病床機能報告の結果等について説明を行うとともに、平成30年度からの病床機能報告において、保険点数による医療機能分類を参考に、医療機能を選択する取扱いが示された。

（主な意見・質問等）

急性期及び慢性期の病床が多く、回復期が少ない地域の問題に対応するため、中小病院について、経営面も見ながら回復期への転換を検討する必要がある。

- 病床機能報告は病棟単位で医療機能を選択する取扱いだが、中山間地域に立地する公立病院は、一病棟の中で様々な症状の患者に対応しているため、将来の方向性については、実態を踏まえて検討する必要がある。

4 討議等

- 地域の課題は医師数の確保。稼働病床数は医師数に応じ保険診療で認められる範囲となることや受入患者の重症度等により決まるため、病床稼働率では病院の実態は測れない。
- 中山間地域は、医療機関の減少や医師の高齢化等により、医療資源の維持が非常に厳しくなっている。
- 地域医療構想と地域包括ケアシステムは両輪であり、共に進めていく必要がある。特にへき地では、退院後に帰る場所がないことが問題のため、住まいの確保を進める必要がある。
- 在宅医療をさらに進めていくためには、看護師や歯科医師等の様々な職種の連携を深めていく必要がある。